

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながらも堅調な推移か

[4月3日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月27日～3月31日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	130.56	133.51(31)	130.41(27)	133.16	+2.43
ユーロ・ドル	1.0754	1.0926(30)	1.0745(27)	1.0902	+0.0142

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,041.48	+656.23	日本10年債利回り	0.337	+0.021
ダウ平均株価	32,859.03	+621.50	米10年債利回り	3.549	+0.173

=====

<来週の主要経済統計等>

- 3日 日銀短観 (3月調査)
 - 豪2月住宅建設許可件数
 - 中国3月財新製造業PMI
 - スイス3月消費者物価指数
 - 独3月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月製造業PMI確報値
 - 英3月製造業PMI確報値
 - 米3月製造業PMI確報値
 - 米3月ISM製造業景況指数、米2月建設支出
- 4日 豪中銀 (RBA) 政策金利
 - 独2月貿易収支
 - ユーロ圏2月生産者物価指数
 - 米2月製造業受注
- 5日 NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利
 - 独2月製造業受注指数
 - 独3月非製造業PMI確報値、ユーロ圏3月非製造業PMI確報値
 - 英3月非製造業PMI確報値
 - ユーロ圏1月生産者物価指数
 - 米3月ADP雇用統計
 - 米2月貿易収支
 - カナダ2月貿易収支
 - 米3月サービス業PMI確報値
 - 米3月ISM非製造業景況指数
- 6日 豪2月貿易収支
 - 中国3月財新サービス業PMI
 - スイス3月雇用統計
 - 独2月鉱工業生産指数
 - 米新規失業保険申請件数
 - カナダ3月雇用統計
 - カナダ3月Ivey購買部協会指数
- 7日 日本2月勤労者世帯家計調査
 - 日本2月景気動向指数速報値
 - 米3月雇用統計

【前回のレビュー】FRBによる利上げがあと1回との見方から、米長期金利が上昇しにくく、ドルも伸び悩みを見せやすいとみられる。こうした中、目先は米経済指標の動向に左右されやすい展開が見込まれ、ドル円はもみ合いながらも上値の重い展開となりそうとした。

【米経済指標に左右されやすい展開か】

3月21～22日の米連邦公開市場委員会（FOMC）では0.25%の利上げを決定した。当局者の政策金利の見通し（いわゆるドットチャート）では、2023年末の政策金利見通しを5.125%としており、前回（12月）と同水準となった。2024年末の政策金利は4.375%としている。

米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げはあと1回とみられている。米国では利上げ停止となった後、早ければ7月にも利下げに動くとの見方も出ている。ただ、米国でのインフレ率の高さもあり、年内後半の利下げの可能性はありそうだが、年央の利下げはかなり可能性が低いとみられる。

CME FEDウォッチによると、5月のFOMCでは政策金利据え置き確率が52%前後、0.25%の利上げ確率が48%前後となっている。利上げ打ち止めの時期が視野に入ってきたことで、金利据え置き確率が上昇して、ドルの上値を抑えている。

利上げの着地点が見えてきたことで、FOMC後はドルは上値重く推移している。欧米での金融システム不安が後退したことで、欧米市場で株価が堅調なこともあり、リスク選好の動きからドル売り円売りの動きとなっている。

欧米の金融システム不安への警戒感が後退したことで、今後のドル円は米国を中心とする経済指標に左右されやすい展開が続くとみられる。3日の米3月ISM製造業景況指数、5日に米3月ADP雇用統計、米3月ISM非製造業景況指数、7日に米3月雇用統計といった注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。

3月30日に発表された新規失業保険申請件数は19.8万件となり、事前予想の19.5万件や前回の19.1万件を上回った。ただ、悪化を見せたとはいえ20万件を下回る低水準にあり、米国の堅調な雇用情勢が示されている。こうした中、米雇用統計をはじめとする米国の経済指標は若干の下振れがあるにせよ、堅調な水準が維持されるとみられ、ドルの下支え要因になると見込まれる。

ドル円は3月24日に130円を割り込み、一時129.60台まで下落した。その後は130円を回復して、31日には133円台まで上昇している。今後は米経済指標に左右される展開が見込まれるが、底堅い推移が続くとみられ、ドル円はもみ合いながらも堅調な推移が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、130.00～136.00円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、3日に日銀短観（3月調査）、米3月製造業PMI確報値、米2月建設支出、4日に米2月製造業受注、5日に米2月貿易収支、米3月サービス業PMI確報値、6日に米新規失業保険申請件数、7日に日本2月勤労者世帯家計調査、日本2月景気動向指数速報値などがある。

【ユーロドルは堅調な流れが継続か】

30日に発表された3月のドイツ消費者物価指数は前年比+7.4%となり、市場予想の+7.3%を上回った。前回の+8.7%からは伸びが鈍化したものの、予想から上振れしたことでユーロ買いドル売りの動きにつながった。この日は1.09台を回復している。

ドイツの消費者物価指数が前月からは鈍化傾向を見せたものの、予想を上回っており、水準そのものも高水準となっている。このため、欧米の金融システム不安が落ち着きを見せる中、インフレ抑制のための欧州中央銀行（ECB）による利上げ継続姿勢は意識されて、ユーロドルは堅調な流れが続くこととなりそう。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0700～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日に豪2月住宅建設許可件数、中国3月財新製造業PMI、スイス3月消費者物価指数、独3月製造業PMI確報値、ユーロ圏3月製造業PMI確報値、英3月製造業PMI確報値、4日に豪中銀（RBA）政策金利、独2月貿易収支、ユーロ圏2月生産者物価指数、5日にNZ準備銀行（RBNZ）

政策金利、独 2 月製造業受注指数、独 3 月非製造業 P M I 確報値、ユーロ圏 3 月非製造業 P M I 確報値、英 3 月非製造業 P M I 確報値、ユーロ圏 1 月生産者物価指数、6 日に豪 2 月貿易収支、中国 3 月財新サービス業 P M I 、独 2 月鉱工業生産指数、カナダ 3 月雇用統計、カナダ 3 月 I V E Y 購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。